

んななか、勝負師的要素を少し感じるのは種付けです。今日付けた種が子牛として市場にでるのは少なくとも10ヶ月後。その時の牧場の経営状況、市場の動向をにらんで考えます。後継牛を付けるのか、F1にするのか、雌雄判別精液を使うのか、それとも受精卵移植？。和牛にしても、今絶好調の流行りの種で勝負するか、評価のある程度かたまった安定感のある種を使うのか…。

そうはいつでも一年、一年半先のことなんてなかなか予測できません。考えすぎて裏目にもよくあります。酪農なら後継牛を残したい牛には乳牛の種を、成績の悪い牛や繁殖に苦勞している牛にはF1を（繁殖能力も遺伝する部分があるはずですから）…。といった王道を、市場の動向に関わりなく行くのが長い目で見るとよいのかもしれません。あっ、勝負弱い私の言うことですから、あんまり信用しないほうがよいかも…。

牛群検定ビッグデータ（その7） ～ 305日乳量の推移～

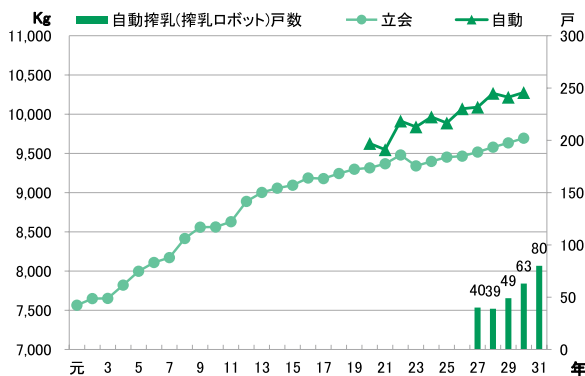
牛群検定のビッグデータからわかるいろいろなことを本コーナーで紹介しています。

酪農家の労働負担軽減・省力化のため搾乳ロボット等の先端技術の導入が進んでいます。

搾乳回数が増えるため乳量も増加しますが、それに伴い飼養管理等も変わってきます。

搾乳ロボット自体も進化しており、牛に関する様々な情報も得られますが、生産性の向上を図るために牛群検定を活用しましょう。

都府県



北海道

